新年度予算

令和６年度一般会計予算過去最高の５４７億円

令和6年度の一般会計予算は、前年度に比べ５０億円増の５４７億円で、過去最大の予算となりました。もうすぐ迎える市制２０周年の節目を契機として、今後のさらなる成長につなげる積極予算といえますが、借金や積立金など将来のまちづくりを見据えた財政運営は大丈夫なのか。予算の概要について、予算決算常任委員会などの審査から、質問形式で報告します。

Q　過去最大の予算となった要因は。

A　未来への投資として、妊産婦の医療費助成や民間保育所の整備などの新規事業へ積極的に取り組むこととしたほか、合併特例事業債の発行期限を見越した重点事業の執行や、令和７年に開催する国スポ・障スポ大会に向けた準備を計画的に進めていく予算としました。また、物価や人件費の高騰などによる経費も大幅に増加したことが影響し過去最大規模の予算となりました。

Q　歳出予算に対する歳入の状況は。

A　市税は例年並みを見積り、地方交付税は対前年度比５．６％増の１１３億円を計上しました。ふるさと寄付の伸びや国・県費の活用、合併特例事業債の有効活用などの財源確保に努め、予算規模の拡大に伴う財源不足に対しては、財政調整基金と減債基金から３７億円余りの繰入れを行っています。

Q　合併特例事業債などの市債が２７億円余りと、昨年に比べ１２億円余り増えているが、その要因は。また、借金をすることで将来世代に負担増にならないのか。

A　合併特例事業債の発行期限が令和7年度までですので、制度上有利な起債を活用した結果です。また、中長期的な推計においても、市債の償還金（借金の返済金）が市債発行額（借入額）を上回っているため、市債残高は今後も減少傾向にあり、将来世代に禍根を残さないよう努めています。

Q　基金繰入額が４９億円余りで、昨年に比べ１０億円増え、基金残高が目減りしている。内訳と目的は。将来の財政運営において問題はないのか。

A　一般財源の不足分を補う財政調整基金から２１億円、元利償還金の財源を補う減債基金から１６億円のほか、公共施設整備基金やふるさと寄附基金などの目的を持った基金から１２億５，３００万円を繰入れています。令和５年度末の財政調整基金の残高は約６１億円で、本市の財政規模からみても妥当な額と考えています。今後も有利な起債を活用していくとともに、目的基金の繰り入れも視野に入れていきます。

令和６年度一般会計予算の討論

賛成討論

西﨑　彰　議員

　令和６年度は、市制２０周年を迎えるにあたり１０年先、２０年先を見据えた主要施策を強力に推進するとともに、合併特例事業債の発行期限を見越した重点事業の執行や国スポ・障スポ大会に向けた準備を進めていく予算としています。

　さらに、市民生活や地域経済の安定を図り、中心市街地のにぎわい創出や農林水産業・商工業の振興、結婚・妊娠から出産・子育ての継続した支援、健康福祉・地域医療の充実、教育環境の整備、観光や歴史文化・スポーツの振興、都市基盤や公共交通機能の強化、ＤＸ推進による市民サービスの向上など、早急に取り組まなければならない事業を推進するため、総額５４７億円の過去最大規模の予算となっています。

　積極的な予算となりますが、財政の健全性を保つとともに、早急に取り組むべき施策を積極的に推進することで、市民の皆さんが誇りを持ち安全で質の高い暮らしを享受できるよう、強く豊かな東近江市の創生に向けた行財政運営を実行していただけると確信し、本案に賛成します。

反対討論

田郷　正　議員

　本予算は昨年度を５０億円も上回り、余りにも「合併特例事業債頼み」「国スポ偏重」の大型予算であり反対である。

　第１に国スポ・障スポ競技会場施設整備費２億５，５８８万円、リハーサル大会経費３億８，０００万円、布引体育館改修１３億６２０万円、能登川カヌーランド改修１億９，５００万円など国民スポーツ大会偏重であること。

　第２に大企業への企業立地促進奨励金や雇用促進奨励金の支給、（仮称）黒丸ＳⅠＣ整備１億３，５５９万円、「近江鉄道八日市駅東西連絡通路設置」構想検討２，５００万円、「森の文化博物館」調査等３８０万円など大企業優遇・公共事業優先であること。

　第３に一方で県の医療費助成拡充で多くの市町で１８歳までの医療費完全無料化が実現する中、通院５００円と入院１，０００円の自己負担が存続され、また学校給食費が小学校で月４００円、中学校で月５００円値上げされる。

　市政の目的は「住民福祉の増進」であり、市民生活、福祉、教育優先の予算にすべきある。